

KINDAI KENCHIKU

June

Vol.75  
2021

# 近代建築

# 6



特集 ホテル・宿泊施設の計画と設計

# リビエラ逗子マリーナ ホテル・レストラン計画 MALIBU HOTEL

神奈川県逗子市

設計・監理／久米設計  
施工／大洋建設



様々な居場所を創る建物配置、ランドスケープ計画



テラスへとつながる、陽光あふれるロビー



テラスと一体となり全面開放されたレストラン



大開口サッシによる奥行きのあるバルコニーとの一体性

自然を享受するスモールラグジュアリーホテル  
神奈川県逗子市の「リビエラ逗子マリーナ」内に一帯の更なる活性化を目指して計画されたホテル&レストラン。5万坪の敷地内にはヨットハーバーやレストラン、イベント会場、リゾートマンション等が広がる。計画地はマリーナの南端、ヤシ並木とハーバーに隣接し、その先に江の島・富士山、南に相模湾を一望できる場所である。この雄大な眺望を活かしたリゾートホテルとしてリビエラ逗子マリーナに新たな体験を生み出す施設が求められた。そこで、緩やかに様々な居場所がつながるヒューマンスケールで自然を感じる建築空間づくりと、大きな水盤の挿入により新たに生み出されたハーバーと連続する水辺風景で、人々を誘い込む場の創出を目指した。レストランはヤシ並木に面し賑わいの顔を通りに覗かせる半面、ゆったりと静かに時を過ごせるテラス空間が水盤や緑の隙間に場をつなげながら連続する。また切妻屋根によって軒高を抑え空の広がり確保しつつも、内部には高天井の空間を獲得している。さらに

水盤に面する正面の大きな開口部には全開可能なサッシを採用し、テラス席と内部が一体となる設えとした。ホテルはレストランと軸を変え、正面を江の島と富士山方向に向けた配置となる。全面サッシと奥行きのあるバルコニーにより、水平強調の広がりのある開放的な佇まいとなっている。50㎡以上の客室は、間口7mの開放的な室や、手前と奥で眺望の視覚変化を生むステップフロア型等、様々なバリエーションをもつ。1階客室はあえて外部からのアプローチとし、大きなテラスや外部的なインテリアにより自然を近くに感じる設えとしている。この建築と水盤により敷地全体の一体性が生まれ、様々な居場所や風景の中で逗子の雄大な自然を心地よく感じていただけることを期待したい。  
(小野田環、齊藤拓臣、我妻祐一郎、佐藤智和/久米設計)

## 一 五感で感じる特別なひととき

自然豊かでプライベート感のあるリゾート「リビエラ逗子マリーナ」とセブの集うリゾート「マリブ」を重ね合わせ、洗練されたホスピタ

リティを感じさせるインテリアを目指した。陽光あふれるロビーには、マリーナの水面を思わせるような陶器のウォールアートが彩りを与え、手触りの良い自然素材に触れることで、マリーナでの逗留への期待感を高めてくれる。テラス・水盤・海へと連続していく開放的なレストランは、真鍮の意匠照明や飾り棚の艶めきが、日中の爽やかな空気感から、夜の落ち着いた感あるムードへと引き込んでくれる。11室のスイートからなる客室は、白～グレーのナチュラルなトーンの空間の中に、やわらかな素材感の漆喰や織物、籐など、自然素材を用いたヘッドボードや家具・アートワークを配置し、それぞれに個性を持った演出を施した。海や空を感じさせるアクセントカラーを取り込むことにより、内と外との一体感を感じさせながら、自然素材や手仕事の残るものと無機質なものをかけあわせることで、自然さと洗練さが掛け合わせりここでしか体感できないリゾート感を生み出した。  
(見城 昇、中島祐子/久米設計)



マリブホテルのシグネチャールーム [THE MALIBU SUITE]



左/ガーデンと一体となった1階の客室 右/客室内洗面・バスルーム

ランドスケープ計画

本敷地の景観的な魅力は、雁行した建築により生まれた懐を介して海を望めることである。その懐を利用してホテルやレストランでの滞在に非日常を演出した。庭のハイライトである紺碧の水盤はヤシ並木を映す水鏡として海へと連続し、開放的な魅力を顕在化する。2つのレベルから成る水盤は水落ちによる水面の動きや音を奏でるとともに、レストランやホテルの屋外テラスおよびプロムナードとの距離感にバリエーションもついている。それによりパブリックからプライベートに至る場所ごとに異なる個性を生み出した。「マリブ」のもつ空気感を表現した風になびく草花や木々と相まって印象的なシーンが展開する。周辺はレストランやバンケット等既存施設へと海を感じながら巡れるプロムナードを配した。またホテルへのアイキャッチにはリビエラグループのフラッグシップでもある、1927年に建造されたクラシックヨット「シナーラ」のレストア（完全修復）に伴い残された船材を象徴的に用いている。（松尾剛志／PLATdesign）



**小野田 環**……おのだ たまき  
1973年東京都生まれ。1999年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程建築学専攻修了、同年久米設計入社。現在、同社設計本部建築設計部主管



**齊藤 拓臣**……さいとう たくみ  
1987年山梨県生まれ。2012年東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了、同年久米設計入社。現在、同社設計本部建築設計部主査



**我妻 祐一郎**……あづま ゆういちろう  
1992年山形県生まれ。2017年横浜国立大学大学院都市イノベーション学府建築都市文化専攻修士課程修了、同年久米設計入社。現在、同社設計本部建築設計部



**見城 昇**……けんじょう のぼる  
1972年東京都生まれ。1998年芝浦工業大学大学院建設工学科修了、2009年久米設計入社。現在、同社設計本部インテリア設計部副部長



**中島 祐子**……なかしま ゆうこ  
1985年埼玉県生まれ。2009年法政大学大学院工学研究科建設工学修了。2015年久米設計入社。現在、同社設計本部インテリア設計部主査



**佐藤 智和**……さとう ともかず  
1967年東京都生まれ。1992年日本大学理工学部建築学科卒業、同年久米設計入社。現在、同社開発マネジメント本部都市開発ソリューション部部長



**中村 慶太郎**……なかむら けいたろう  
1989年生まれ。2012年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業、同年大洋建設入社。現在、同社生産本部建設部建築グループ作業所長



上/ホテルアプローチ 左下/プライベートテラスと客室 右下/レストランテラス

リビエラ逗子マリーナ ホテル・レストラン計画

MALIBU HOTEL データ

所在地 神奈川県逗子市小坪5-23-16

主要用途 ホテル

建築主 株式会社リビエラ

設計・監理 久米設計

担当/総括：小野田環 建築：齊藤拓臣、我妻祐一郎 PM：佐藤智和、佐々木翔 構造：吉成裕 設備：町野陽一郎、高橋雄哉、伊藤 学、大谷勝紀 インテリア：見城 昇、中島祐子、上野道子 監理：木曾一宜、伊藤伸夫、佐藤竜也、坂木 純

ランドスケープ プラットデザイン

担当/松尾剛志、近藤範和、村山景一（元所員）

照明 ニューサデザイン

施工 大洋建設

担当/建築：中村慶太郎、森田和良、毎原 訓、塩島俊樹、内田勝英、沼田圭佑、渡邊 駿

設備：大川雄次郎

設計期間 2018年1月～2019年1月

工事期間 2019年3月～2020年2月

開業 2020年3月26日

【建築概要】

敷地面積 2,965.05㎡ 建築面積 655.19㎡

延床面積 1,472.95㎡

建ぺい率 22.11%（許容60%）

容積率 48.73%（許容200%）

構造規模 S造 地上4階

寸法 最高高さ/15.86m 軒高/15.36m 階高/4.0m 天井高さ/3.0m 主なスパン/6.5m×7.0m

道路幅員 12m 駐車台数 8台

地域地区 市街化区域、第2種住居地域、防火地域指定なし（法第22条区域）

客室数 11室

Room A～C、E：ツイン（50㎡）×10室

Room D：ツイン（92㎡）×1室

【設備概要】

電気設備 受電方式/6.6kV1回線 変圧器容量/400kVA 予備電源/燃料電池、太陽光（2.25kW）

空調設備 空調方式/分散（マルチ、パッケージ） 熱源/電気

衛生設備 給水/市水、受水槽 給湯/中央式（ガス）

排水/屋内（合流）

防災設備 消火/消火器 排煙/自然排煙 その他/誘



配置計画

導灯、非常照明

昇降機 乗用13人×1基

【主な外部仕上げ】

屋根 フッ素ガルバリウム鋼板

外壁 セメントボード+左官仕上

建具 スチール・アルミ・木

外構 木デッキ・自然石

【主な内部仕上げ】

レストラン 床/モルタル金鍍押え、タイル 壁/左官

塗装、せっ器質タイル 天井/ダイノックシート

ロビー 床/磁器質タイル 壁/左官塗装 天井/EP塗装

客室 床/複合フローリング、磁器質タイル 壁/左官

塗装、クロス貼、せっ器質タイル 天井/EP塗装

撮影/TOREAL（藤井浩司）

協力会社

電気設備工事	サンテック
外構・造園・植栽工事	ウィズガーデン
測量・墨出し工事	川久保企画
共通仮設・仮設機材リース	関東建機
コンクリート圧送工事	那須産業
スチール製金物工事	マハロ
シャッター工事	文化シャッター
排煙装置	オイレスECO
塗装工事	アイビー21
左官工事	池田興商
ガラス工事	トキワ工業
木製建具工事	上野硝子工業
大工・木製ルーバー・フローリング工事	阿部興業
内装仕上工事	大橋
	インテリアアライ